

第1回 精神障害者の住まい検討部会	
日 時	平成 27 年 7 月 24 日 (金)
開催場所	KRCビル 大会議室
出席者	大友委員、佐伯委員、塩崎委員、土屋委員、宮川委員
開催形態	公開
議 題	1 開 会 2 障害企画課長あいさつ 3 議題 (1) 精神障害者の住まい検討部会について (2) 住まいに係るサービスの現状について 4 その他
議 事	<p style="text-align: center;">— 開会 —</p> <p style="text-align: center;">— 障害企画課長 挨拶 —</p> <p style="text-align: center;">— 委員の全会一致により、塩崎委員を部会長として選出 —</p> <p style="text-align: center;">— 塩崎部会長 挨拶 —</p> <p style="text-align: center;">— 事務局紹介 —</p> <p style="text-align: center;">— 資料1及び資料2について、事務局から説明 —</p> <p style="text-align: center;">— 事務局挨拶 —</p> <p style="text-align: center;">— 資料1及び資料2について、事務局から説明 —</p> <p>●資料1及び2について</p> <p>・地域移行支援と地域定着支援についての国と市事業の事業所数と予算はどのくらいでしょうか。</p> <p>⇒(事務局から)国事業の地域移行支援・地域定着支援の事業所は 50 か所程度の登録がありますが、ご説明した実績ですので、実態としては、あまり利用がないものと考えております。</p> <p>また、市事業の地域定着・地域移行支援は、生活支援センターのA型9か所で実施しています。</p> <p>予算については、今正確な数字を控えておりません。</p> <p>●現状の住まいの関わる課題及びその解決策について</p> <p>・印象的な意見になりますが、地域移行支援・地域定着支援については、それなり</p>

の予算を投じている割に、効果が出ていないのではないかと思います。この辺りは厳しく検証するべきであると思います。

・現在、グループホーム(以下「GH」と言います。)の設置数は、横浜市は市単独の支出をしており、他市町村に比べたら恵まれていると思います。ただ、GHに対するニーズは高いと思うが、一方で、財政状況としては、今後、厳しくなるのではないのでしょうか。GHの在り方について、効果的な運営の仕方はないのか、ということについて、かなり知恵を出す必要があると思います。

・私のGHの経験からの意見ではありますが、今、GHで生活している半数の精神障害者は、一定の支援があれば、アパートで暮らせると思います。このような事も含めて検討するべきではないのでしょうか。

・具体的に考えていることとして、GHの制度の補助金について、GHからアパート等に移行した場合の地域移行加算があっても良いと思います。また、もう一つは、アパートへ移行したときに、1万円の家賃補助を(団体に)出しても良いのではないのでしょうか。さらに、見守り支援として団体へ補助するなどの検討も必要だと考えています。

・団体は、社会福祉法人やNPO法人、医療財団法人など精神障害者に関わる事業者の団体を想定しています。

・資料からも見えますが、病院から在宅へ帰る人は多いので、在宅に移った場合、家族への支援策が何らか必要なのではないのでしょうか。ひきこもりの方への支援や、その方々への個別のアプローチが必要です。

・これらの財源としては、まずは、効果が出ていないところを厳しく見直す必要があるのではないかと思います。

・資料2を見て思いましたが、民間住宅あんしん入居及び地域移行支援・定着支援が機能していないのは何故でしょうか。しっかりと検証していくべきではないのでしょうか。

・NPOの団体や病院などが間に入らないと、自分で探して入居することは難しいのではないのでしょうか。個人への援助ではなく、そういった団体への援助が必要なのではないのでしょうか。

・軽度の人もそうですが、このような重度の方が地域で生活できるような仕組みも考えていく必要があるのではないのでしょうか。

・正直なところ、GHはあまり人気がないのではないのでしょうか。

・今後の在り方としては、多様な在り方を考えるべきではないのでしょうか。

・支援している中で感じるのは、連絡先が確保できないことがアパート探しをする上においては難しいということです。精神障害と表だって言えないことが現状です。やはり、不動産屋の不安は、家賃を払ってくれるのか、近隣とのトラブルがどうなのか、亡くなったらどうするのか、ということです。

・アパート入居を促進することで、GHの効率化や費用対効果もよくなるのではないのでしょうか。今はGHということでは飛びつきません。1Rタイプを希望する方が多いです。

・病院からの地域移行の仕組みをもっと考えるべきではないのでしょうか。やはり、精

神科特例を廃止して、一般病床と同じ診療報酬へ上げるということも考えるべきではないでしょうか。より質の高い診療体制を整えることが必要だと思います。小手先のことをやってもうまくいかないで、横浜市は、きちんと考え直すべきだと思います。

・あんしん入居制度そのものが、現実の課題と対応していないではないでしょうか。制度の設計が、外国人に対応する制度を流用したみたいなどを感じ、精神障害者の課題とマッチしていないように感じます。その精神障害者の課題とは、精神障害者への偏見があることや、緊急連絡先がない、トラブル解決を誰がどうするか等です。あんしん入居は経済的な保障のみであり、大家さんが心配しているところは、金銭だけではないのです。

・医療ニーズがある入居者が増えていると感じます。そういった方はGHでは支えていくことが厳しいと思います。

・GHの高齢化の問題もあります。GHができた頃に入居した人の中では、20年経つ人もいます。内科的な疾患や高齢に伴うADLの低下が出てきており、一人暮らしが難しくなっています。そういった方への受け皿としてGHだけで良いのかという問題があると思います。

・(私は、)支援者側として、精神保健福祉士として仕事を始めたが、GHでは介護の役割を担うことになり、そのギャップに苦しむ方もいます。その辺りも考えていく必要があるのではないのでしょうか。・システムを作る必要があるという認識については、一致しているのではないのでしょうか。

・平成28年度には、モデル事業として頭出しする必要があるのでしょうか。議論ばかりしていても先に進まないと思います。

・実際に事業を進めるということではあれば、そのニーズや実態について、どのくらいかは把握する必要があるのではないのでしょうか。それがないと中々制度を進められないのではないのでしょうか。

・アンケート調査等でバックデータを取ることが必要で、それはすぐできるのではないのでしょうか。実態調査を大がかりに行くと、時間がかかってしまいます。

・これまでのアンケート調査は、ほとんどが病院に対して調査をするものです。それには、病院側の思いというバイアスがかかってしまいます。きちんと入院している本人に、「退院先はあるのか」など個人宛てた、アンケート調査をするべきであり、そうしないとニーズはとれません。そういった一人一人に対する調査をしてほしいと思います。

・平成5年の衛生局時代に市がやっている調査がある。その時とニーズは変わらないのではないのでしょうか。

・平成5年では、今とだいぶ状況が変わっているので、改めて、大規模な調査を行う方が良いのではないのでしょうか。

・安心して生活するためには、夜間と休日の医療体制をどのようにしていくのかも踏まえていく必要があります。今は2次救急・3次救急くらいしか対応できていません。夜間に相談だけで落ち着く人もいれば、入院しなくてはいけない人もいます。その辺りへのニーズがどのくらいあるのでしょうか。今の仕組みでは重度の人

が優先されてしまうのが現状ではないでしょうか。

・20年前から比べて、サービスが増えてきた中で、制度全体の重なる部分もしっかりと検証していくことが必要なのではないでしょうか。精神保健福祉審議会では、10年後、20年後を見据えた議論をしてべきだと思います。

・一人暮らしの支援が成り立つには、夜間への相談が必要です。24時間やっている診療所などがあり、駆けつけてくれるものがあるといいのではないのでしょうか。この辺りの部分がクリアにならないと、一人暮らしは難しいのかもしれませんが。実際一人で生活し続けるための支援が必要ではないのでしょうか。

— 散会 —